



高千穂と日之影をつなぐ「乙女大橋」^{おとめ}開通式

10月23日（日）に、森林基幹道 高千穂・日之影線の乙女大橋の開通式が、この林道の期成同盟会（坂本 弘明 会長）の主催により盛大に開催されました。

県が整備を進めている高千穂・日之影線は、県で開設するものとしては、県内最長を誇る森林基幹道で、国産材供給基地である本県において、木材の供給や森林の適正な管理はもとより、沿線住民の皆さんの生活利便性の向上や地域振興、さらには災害時の迂回路として防災にも大きな役割を果たすことが期待されています。

同路線のシンボルとなる乙女大橋は、高千穂・日之影両町南部を結ぶまさに「架け橋」であり、当日は、江藤 拓 衆議院議員や河野 俊嗣 知事、永山 寛理 副知事、中野 一則 県議会議長のほか、織田 央 林野庁長官や元林野庁長官である牧元 幸司氏（元副知事）、本郷 浩二氏の歴代3長官も駆けつけ、地元の方々からは「田植え神楽」が披露されるなど、普段静かな山あいはお祝いムード一色に包まれました。

なお、乙女大橋の工事は、今年9月の台風14号の影響で現場に資機材が搬入できない状況となりましたが、舗装を残し概成したことから開通式が行われたものです。森林基幹道の橋梁としては、来年には本格的に利用可能になりますが、生活道が被災した地元の方々には既に利用していただいています。

株式会社マルサン

とだか しょうじ

代表取締役 戸高 昌治 さん



林業振興
を期待します！

—— 素材生産事業者の方から見ると、乙女大橋の開通によってどのような効果が期待されますか？

山から伐（き）り出した木材を大型トラックでスムーズに運べるようになります。これまでは細い道で、一回で曲がれないのでトラックを切り返して運んでいました。乙女大橋を利用できるようになれば、大型トラックで楽に運ぶことができるので、運転手の負担も減り、一日に運ぶ量も大幅に増えて効率が上がります。

—— 高千穂日之影線は、計画延長41.1 km、全線5.0mという広い幅員で整備される森林基幹道で、対象となる森林面積は2,992haと広大です。全線が開通すれば、どう変わってくるでしょうか？

広い道が通り、さらに枝道として作業道などを入れれば木材の搬出が便利になり、山の価値は大きく高まります。西臼杵は、切り立った険しい場所にもスギが植えられていて、簡単には伐り出せないところもありますが、道があればそこを拠点にして、架線を張って木材を出せるようになります。



—— 伐った後は、再び造林し、循環型林業を行っていくことが課題となっています。マルサンさんは森林も所有されていますが、山の管理も楽になるのではないですか？

実は、高千穂・日之影線の整備も進んできているので、所有林を植林して、今年も下刈りを頼んでいました。しかし、9月の台風14号で日之影町の町道（鶴の平乙女線）や現地の作業道が決壊して、作業員が行けなくなってキャンセルになってしまい残念です。

森林は、木材を生み出すだけではなく、国土を保全し、水源をかん養するなど大切な役割を果たしていますが、一方で、森林を所有している方々の高齢化が進んでいて、後継者もいなければ、伐っても再び植林して、下刈りや除伐、間伐をしていこうという意欲が湧きにくい状況があります。

町道が決壊したので、乙女大橋の本来の効果が発揮されるのはもう少し先になるでしょうが、道があれば、植林をしようかという気持ちにもなりますし、手入れもしやすくなります。循環型林業を進める上でも、森林に道を整備することはとても重要だと思います。



日之影町 松の木地区公民館

かい ぜんいち

前館長 甲斐 善市 さん

防災・交流

を期待します！



—— 乙女大橋の開通によってどんな効果がありますか？

日之影側からは町道を通って天翔大橋を渡り、国道218号に出ることができたので、乙女大橋の開通で道路事情がそれほどよくなるとは思っていませんでした。

ところが、台風14号でその町道が決壊し、通れなくなりました。困った日之影側の乙女集落の人たちは、開通前の乙女大橋を渡らせてもらい、高千穂側に出ることができたので、集落は孤立せずに済みました。また、台風の直後に高千穂家畜市場で子牛のセリ市が開催されたのですが、乙女集落からも乙女大橋を渡って子牛を出すことができました。

—— 乙女大橋が、早速、役に立ってよかったです。

昔の話ですが、高千穂側の山中神社で神楽の練習が終わると、よくお酒を飲んでいましたが、ちょっと飲みすぎて、夜に谷を渡って帰る途中道を踏み外して下に落ちたことがあります。乙女大橋ができていたら、そんなこともなかったんでしょうけど（笑）。

このように、狩底川で隔てられていても、日之影側と高千穂側の集落はこれまでも交流はありましたし、全線が開通し高千穂町押方まで行くことができるようになれば、町を越えた交流の範囲はさらに広がるかもしれません。

また、沿線周辺には二上神社や秋元神社、大人神社や西南の役の古戦場などもあるので、伝説や歴史でつながる観光ルートとしても期待できます。

全線計画

高千穂町押方の国道218号との交点を起点とし、日之影町岩井川の森林基幹道宇目・須木線との交点を終点とする、県内最長の林道です。

概要

総延長	41.1 km
高千穂町側	29.0 km
日之影町側	12.1 km
幅員	5.0 m
事業期間	H28年度～R17年度 (20年間)
利用区域	
利用区域面積	2,992 ha
森林蓄積	780,597 m ³
人家戸数	104 戸
計画総事業費	約 70億円

森林基幹道 高千穂・日之影線

開設延長の進捗状況
R4.7 時点 **14.3%**
(乙女大橋含む)



乙女大橋

高千穂町の狩底と日之影町の乙女に架かる林道橋で、県内第6位の延長を誇ります。(R4.11現在、大型車の通行はできませんが、生活道として利用する地元の方には通行していただいています。)

概要

延長	114.0 m
幅員	5.0 m
高さ	32.3 m
構造形式	PC2径間連続 ラーメン箱桁橋
総工事費	約 10億円



※写真は工事中のものです

利便性・文化伝承

を期待します！

おがり
高千穂町 尾狩地区公民館
かい いさお
館長 甲斐 勲 さん

—— 乙女大橋の開通は、どんな効果をもたらしますか。
自分たちがまず望むのは、乙女大橋を通して、日之影側の町道から天翔大橋に出ることができるようになることです。台風14号で決壊した町道が復旧すれば、それが実現します。乙女大橋は重要な橋なんです。

—— 開通式では、山中神社神楽の演目である「田植え神楽」を披露していただきました。橋が開通すると練習もしやすくなるので、よかったですね。

いいどころじゃない。乙女大橋の開通で、両岸の行き来は車でひと渡り。曲がりくねった狭い道を下り上りするのは大違いです。

山中神社神楽は、昔から高千穂側の集落(尾峰、狩底)と日之影側の集落(乙女、草仏)の人たちが一緒に舞って伝えてきた神楽でしたが、人が減って今では日神楽(日中に舞う神楽)になり、3番か4番舞う程度です。舞手、太鼓や笛など一人三役くらいしなければ神楽になりません。それでも、両岸の集落が支え合って、これからも伝え残していくために、乙女大橋は大きな役割を果たすことでしょう。



開通式で披露された田植え神楽



10月8日（土）、「つなぐ棚田遺産」に認定されている高千穂町の徳別当棚田で、棚田のある山附集落にゆかりのある親子18人が、稲刈り体験をしました。主催したのは、地域農業を守ろうと取り組んでいる地元の「徳別当棚田受託組合」の皆さんです。

県内外から参加した親子は、鎌の使い方を教わると、慣れない



手つきで1株ずつ刈り取りました。子どもたちはコンバインにも乗せてもらい、初めての体験に目を輝かせていました。

参加した親子は、今年6月に田植えも行っており、採れたお米は各自宅に届けられることになりました。

佐藤 公也 組合長は、「こうした取組を通じて、参加者にはこの地域に想いを寄せてもらい、できれば、いつか戻ってきてくれることを願いたい」と話していました。

美しい宮崎づくり知事表彰

を西臼杵2団体が受賞！

「美しい宮崎づくり知事表彰」は、県内で美しい宮崎づくりに取り組む団体等を表彰し、県民の皆さんに美しい宮崎づくりに対する関心を高めていただき、より一層取組を促進することを目的として県が創設したもので、大賞のほか3つの部門賞と特別賞、奨励賞があります。6回目となる今年は、西臼杵から2つの団体が部門賞に輝き、10月24日（月）に宮崎市で表彰式が行われました。

まちなみ景観賞

高千穂高校



高千穂高校の生徒による高千穂町内の観光地や歩道の清掃活動が評価され、「まちなみ景観賞」を受賞しました。

清掃活動の中心を担う同校インターアクトクラブは、学校の活動とは一線を画した生徒独自の特別クラブです。地域学習をする中で高千穂町の魅力を知った生徒が、町を訪れる人たちのために地域を綺麗にしたいという想いから校内でボランティアを募集し、高千穂峡や道の駅高千穂、神殿通りの歩道などの清掃活動、竹灯籠やブランコの制作活動などに取り組んできました。

クラブの代表を務める甲斐 龍之介さんは、「観光で町を訪れる人たちのために始めた活動が地域の方からも感謝され、とても嬉しい」と話していました。

水と緑の景観賞

なかかわのぼり

中川登集落協定



棚田での田んぼアートに取り組んでいる高千穂町の中川登集落協定の活動が評価され、「水と緑の景観賞」を受賞しました。

維持するのに多くの手間がかかる棚田ですが、集落の方々は「先人達が苦勞して開墾した棚田を将来に繋げていきたい」という想いで保全管理活動を行っており、その活動の一環として平成23年から田んぼアートに取り組んでいます。

図柄は集落の方々や地元の学生など多くの人と一緒に考えて、田植えには地域内外から多くの人に参加するなど、田んぼアートを通じて多くの人に関わるようにすることで、交流の輪を広げ地域活性化を図っています。

今年は、世界平和とコロナの収束を願った白い鳩と神楽の面の図柄でした。来年はどんな図柄が浮かび上がるのか楽しみですね。

